



執筆者: マーケット・プレイス・オフィス代表 立澤 芳男(たつざわ よしお)
 流通系企業の出店リサーチ・店舗コンセプトの企画立案など、都市、消費、
 世代に関するマーケティングの情報収集と分析
 元「アクロス」創刊編集長。著書に「百万人の時代」(高木書房)等

2009年2月

第9回 今(いま)どきの新入学生たち

ほぼ受験シーズンも終わりを告げ、悲喜こもごもの情景が街に見られるシーズンがやってきた。

毎年のことではあるが3月、4月は新入学生、新入社員などで電車が混み合うが、今年は例年とは違うような気がする。昨年末から世界同時不況、百年に一度の危機といわれてきたが、今年に入って月を追うにしたがってその危機的状況は深まっているようだ。いまだきの受験事情を見ると、大学受験も人気の高いブランド難関有名大の志願者が減っている。減少した大きな理由は経済不況にあるといわれ安全志向の志望校選びを行っているようだ。また、幼稚園や小学校の今年のお受験事情もお金持ち中心へと大きく様変わりしているようで、今年の新入生入学事情に暗い影を落としている。

少子化と言われ早20年近く経つが、少子社会下の子供達が、小学校や中学校、高校、大学に入学してくる。その結果、義務教育レベルや高校生の新入学生は過去最低の数字がこの数年間記録され、また、高校ばかりか大学まで全入時代になった。

文部科学省の「学校基本調査」によれば、かつて平成2年度に760万人であった入学者数(幼稚園から大学院まで含む)は平成20年度527万人であった。今年度は進行する少子化の影響でそれを下回りそうだ。しかし、中身を見ると、新入学生総数は減っても、大学や大学院の新入生は増えているという歪んだ(?)教育体系が見えてきている。少子高齢社会という社会構造の大変化と未曾有の厳しい経済危機状況の中で、教育の場に新しい生徒や学生が入学してくるわけだが、いまだきの幼稚園や小学校、中学校、大学の新入生は、大不況と厳しい受験を通して格差社会を目の当たりにして新入生となる。その「いまだきの新入生」を追う。

0. 日本の学校 計 約527万人の新入生が誕生—2p

1. 幼稚園 新入園児63万人 大切な一人っ子。ペット化するいまだきの新入園児—4p
2. 小学校 新入生117万人 一族郎党を従え校門くぐるピカピカのいまだきの1年生—6p
3. 中学校 新入生118万人 人生最大(?)の難関を乗り越えてのいまだきの新入生—7p
4. 高等学校 新入生124万人 「15の春」を泣かない。全員入学のいまだきの高校新入生—9p
5. 専修学校 入学者数は30.6万人 年々入学者は減り続けピーク時の67.5%。女が男を上回る—11p
6. 各種学校 入学者数は6.4万人 「予備校」「自動車操縦」「外国語学校」などに集中—12p
7. 短期大学 入学者数は8万人弱 激減の中、専門性志向強める短大新入生—14p
8. 大学(学部) 入学生数は60万人 全入時代がはじまり入学者数は最高レベルに—16p
9. 大学院 入学者約10万人 屋上屋を重ねる大学院。就職を避け大学に居続ける大学院入学生—19p

日本の新入生データ 新登場 約 527 万人の新入生誕生。

今年度、日本の社会にどのくらいの新入学生が誕生したのか。

小学校や中学校などの新入生は、義務教育制度下にあり、その適齢年齢層の出生人口とほぼ等しい。

高等学校、専修(専門)学校、各種学校、短期大学、大学、大学院など高等教育分野における新入生は、教育供給側の受け入れ可能収容人員(募集人員)の状況や進学希望者数、受験競争率、経済環境によって大きく変化する。しかし、現在の日本の新入学状況は根本的に大きく変わりつつある。それは、少子化や高学歴化という大きな流れが、例えば、高校も大学も「全入時代」として、新入学状況を規定しつつある。

直近のデータ(平成20年度「学校基本調査」文部科学省)で日本の学校の新入生数の推移を見ると、昭和55年から昭和60年前後に、幼稚園・小学校・中学校の新入生数はピークとなり、それ以降減少を続けている。昭和末期からの少子化(出生人口の減少)の影響である。

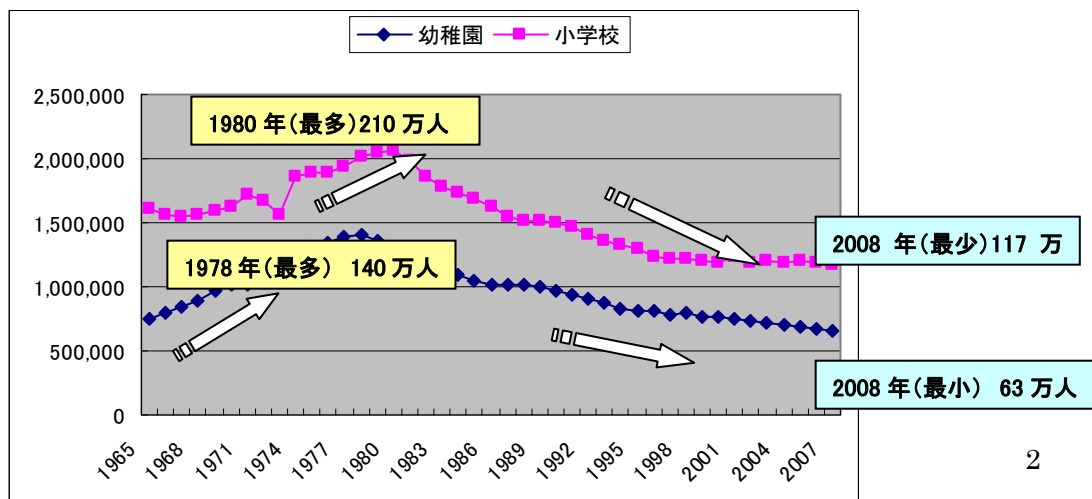
平成20年度の新入学の状況を見ておこう。文部科学省の学校基本調査によると、幼稚園入園者数は63万人、小学校入学は116.6万人、中学校入学生は117.6万人となり、ピーク時の6割程度となっている。また、高校や短大への入学者数を見ると、高校への新入生は118.4万人、短大生は7.7万人となり、第二次ベビーブーマーが入学対象者となった平成2年度をピークに平成時代に入ってから徐々に減少している。

一方、大学や大学院の新入性は増加し続け、大学(学部)の新入生は60.7万人、大学院(修士、博士計)は9.3万人と過去最高となっている。

◆幼稚園新入園児 63 万人。小学校新入生 117 万人、中学校新入生 118 万人。

—幼稚園、小学校、中学校、高等学校の入学者推移(単位:千人) 「学校基本調査」(文部科学省)

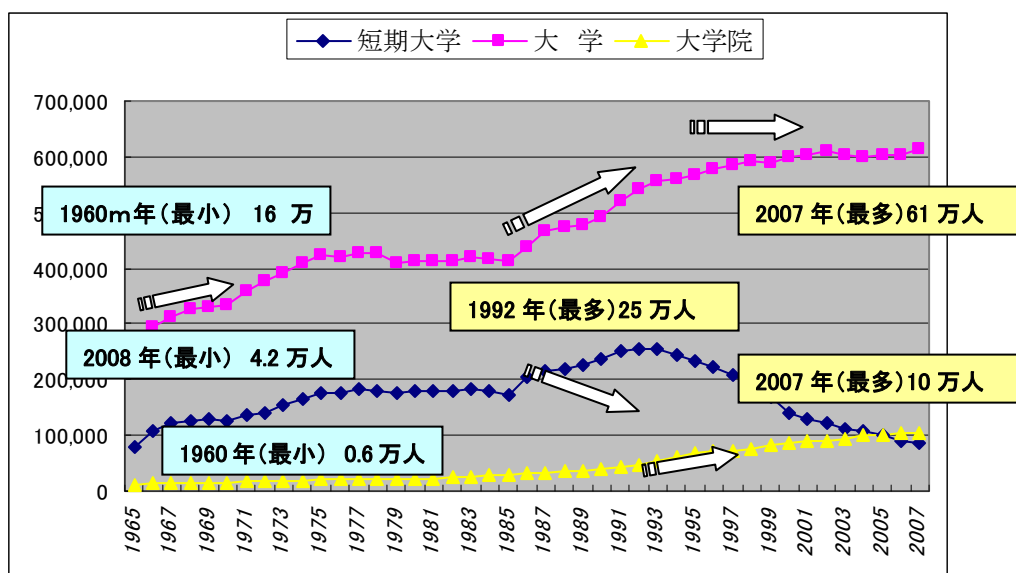
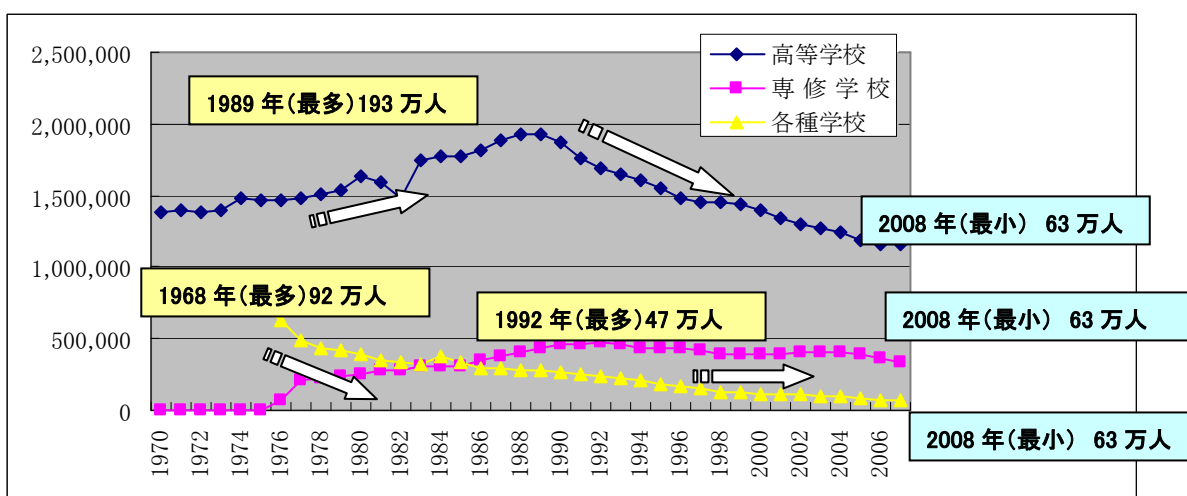
| 年度 | | 幼稚園 | 小学校 | 中学校 | 小計 |
|---------------|-------------|------------|--------------|--------------|--------------|
| 昭和 45 年 | 1970 | 1,012 | 1,622 | 1,525 | 4,159 |
| 50 | 1975 | 1,311 | 1,892 | 1,612 | 4,815 |
| 55 | 1980 | 1,300 | 2,056 | 1,854 | 5,210 |
| 60 | 1985 | 1,044 | 1,683 | 2,047 | 4,774 |
| 平成 2 年 | 1990 | 968 | 1,502 | 1,733 | 4,203 |
| 7 | 1995 | 818 | 1,300 | 1,513 | 3,631 |
| 12 | 2000 | 759 | 1,192 | 1,326 | 3,277 |
| 17 | 2005 | 692 | 1,200 | 1,200 | 3,092 |
| 20 | 2008 | 630 | 1,169 | 1,176 | 2,975 |



◆高等学校新入生 114 万人。短大 7.7 万人。大学 61 万人。大学院 9.3 万人。

—高校、短大、大学院の入学者数推移(単位:千人) * 本科(全日制及び定時制) 「学校基本調査」(文部科学省)

| 年度 | | 高等学校 本科(*) | 短期 大学 | 大学 (学部) | 大 学 院 修 士 | 大学院博 士 | 専修 学校 | 各種 学校 | 小計 |
|--------|------|---------------|----------|------------|--------------|-----------|----------|----------|-------|
| 平成 2 年 | 1990 | 1,871 | 235 | 492 | 31 | 8 | 454 | 263 | 3,354 |
| 7 | 1995 | 1,552 | 233 | 569 | 54 | 13 | 432 | 186 | 3,039 |
| 12 | 2000 | 1,400 | 141 | 600 | 70 | 17 | 386 | 117 | 2,731 |
| 17 | 2005 | 1,184 | 99 | 604 | 78 | 18 | 387 | 84 | 2,454 |
| 20 | 2008 | 1,144 | 77 | 607 | 77 | 16 | 306 | 64 | 2,291 |





幼稚園

大切な一人っ子。ペット化するいまどきの新入園児。

少子社会と言われてひさしい。子供の出生数はこの数年毎年100万人そこそこと第二次ベビーブーム世代(1970年代後半生まれ)と比べて、半分以下になってしまっている。

そして90年代以降、世の中は格差社会がますます進行し、個人のスキルや能力がより求められる時代へと突入してきている。そのような不安からか、子供には幼いころからしっかりとした教育の場を提供していきたい親が増え、加えて少子化も影響し、それが過剰な幼児教育に向かっている。親ばかりでなく、その教育の場に「祖父や祖母」までが参加したがるようになり、幼稚園入園というイベントは寂しさと暇をもてあます高齢者夫婦によってさらにエスカレートしているようだ。

◆幼稚園には63万人の新入園児が入園

日本には乳幼児を保育・教育する施設として、文部科学省が管轄する「幼稚園」と厚生労働省が管轄する「保育所」と文部科学省・厚生労働省の双方が管轄する「認定こども園」といった施設がある。保育所及びこども園についての実態把握ができていないことや過去のデータがない。ここでは、文部科学省が管轄する幼稚園のデータで新入園児の動向を見る。

| 年度 | | 入園者数 | 指数 |
|-------|------|-------|-----|
| 昭和45年 | 1970 | 1,012 | 105 |
| 50 | 1975 | 1,311 | 135 |
| 55 | 1980 | 1,300 | 134 |
| 60 | 1985 | 1,044 | 108 |
| 平成2年 | 1990 | 968 | 100 |
| 7 | 1995 | 818 | 85 |
| 12 | 2000 | 759 | 78 |
| 17 | 2005 | 692 | 71 |
| 18 | 2006 | 672 | 69 |
| 19 | 2007 | 654 | 68 |
| 20 | 2008 | 630 | 65 |

文部科学省「学校基本調査」

- ①平成20年4月の幼稚園入園者数は63万人。出生年人口(約120~130万人)から見ると、幼稚園入園者数は適齢児の半分しか幼稚園に入園できていないものと見られる。
- ②幼稚園への入園者数推移をみると、第二次ベビーブーマーが入園対象者であった昭和50年代前半の130万人前後をピークに幼稚園入園者数は減少を続けている。
- ③年齢別入園児数を見ると3歳児での入園者が39万人で62.3%、4歳児が19万人30.4%、5歳児が4.6万人7.4%となっており3歳児からの入園者が多い。
- ④設置者別入園者構成比を見ると、私立の入園者は74.9%、公立24.7%、国立0.4%。私立では3歳児からの入園が多く、公立や国立では4歳児、5歳児の入園者が多くを占める。
- ⑤幼稚園の利用者は4時間しか預けられず、パートに出るにも中途半端で、自由な活動もできないと悩んでいる人も多く、また、専業主婦でももっと長く子どもを預けたいと考える人は少なくない。その結果、保育所の入所希望者が増える一方で、幼稚園の入園者は減少するばかりである。

▼年齢別入園者(平成20年度)

文部科学省「学校基本調査」

| | 合計 | 3歳児 | | 4歳児 | | 5歳児 | |
|----|---------|---------|------|---------|------|--------|------|
| | | 計 | 構成比 | 計 | 構成比 | 計 | 構成比 |
| 計 | 630,169 | 392,340 | 62.3 | 191,269 | 30.4 | 46,560 | 7.3 |
| 国立 | 2,652 | 1,265 | 47.7 | 1,353 | 51.0 | 34 | 1.3 |
| 公立 | 155,618 | 42,366 | 27.2 | 79,965 | 51.4 | 33,287 | 21.4 |
| 私立 | 471,899 | 348,709 | 73.9 | 109,951 | 23.3 | 13,239 | 2.8 |

▼幼稚園入園者数(平成 20 年度／設置者別)

文部科学省「学校基本調査」

| | 計 | 構成比 | 男 | 女 | 女比率 |
|--------------|----------------|--------------|----------------|----------------|-------------|
| 合計 | 630,169 | 100.0 | 318,309 | 311,860 | 49.5 |
| 国立 | 2,652 | 0.4 | 1,333 | 1,319 | 49.7 |
| 公立 | 155,618 | 4.7 | 79,164 | 76,454 | 49.1 |
| 私立 | 471,899 | 74.9 | 237,812 | 234,087 | 49.6 |
| 学校法人立 | 428,982 | 68.1 | 215,988 | 212,994 | 49.7 |
| 財団法人立 | 369 | 0.1 | 202 | 167 | 45.3 |
| 社団法人立 | 101 | 0.0 | 50 | 51 | 50.5 |
| 宗教法人立 | 17,236 | 2.7 | 8,782 | 8,454 | 49.0 |
| その他の法人立 | 440 | 0.1 | 243 | 197 | 44.8 |
| 個人立 | 24,771 | 3.9 | 12,547 | 12,224 | 49.3 |

◆低年齢化する「お受験ブーム」／盛んな幼児教育

受験といえば、少し前までは中・高受験、大学受験のイメージであったが、最近、テレビや雑誌、インターネットで幼稚園や小学校を受験する、いわゆる「お受験」という言葉をよく耳にするようになった。しかも2歳くらいから勉強を始めることも日常茶飯事となり、「お受験」は低年齢化が進んでいる。NHKテレビ(報道特集 08・12)によると、アメリカでも、マンハッタンで有名幼稚園や名門小学校を目指す“お受験”ブームが起きているそうで、背景にあるのは治安の回復だそう。家族の安全を確保するため郊外で暮らしていた裕福層のUターン現象が加速し、競争率を激化させているとのこと。

日本では、幼稚園単独ではなく、小学校あるいはさらに上級の学校へ続いていくエスカレーター式タイプの附属の幼稚園もあるが、附属タイプの幼稚園も小学校までしかない幼稚園から大学まで一貫している幼稚園まで、バラエティに富んでいる。これらのエスカレーター式タイプの「お受験入試」が過熱気味で、セレブ生活志向のお試し事として一部の子育てママを揺り動かしている。

受験幼稚園の倍率も公表はされていないが、10 倍を超えるところもあるようで、有名附属小学校に進学している幼稚園は高い人気を保っている。

▼費用 幼稚園生活にかかる学習費用(3 年間) 幼稚園では、私立が公立の 2.1 倍の学習費用負担

| 項目 | 公立幼稚園 約 75 万円 | | 私立幼稚園 約 162 万円 | |
|----------------------|---------------|-----------|----------------|-------------|
| | 年間平均 | 3 年間総額 | 年間平均 | 3 年間総額 |
| 授業料 | 74,446 円 | 223,338 円 | 243,267 円 | 729,801 円 |
| その他教育費(制服・教科書・遠足費など) | 58,900 円 | 176,700 円 | 125,125 円 | 375,375 円 |
| 幼稚園給食費(おやつ含む) | 14,390 円 | 43,170 円 | 25,153 円 | 75,459 円 |
| 園外活動費(学習塾・習い事月謝など) | 103,588 円 | 310,764 円 | 144,861 円 | 434,583 円 |
| 学習費合計 | 251,324 円 | 753,972 円 | 538,406 円 | 1,615,218 円 |

(自治体の私立幼稚園就園奨励費補助金などは考慮せず)

文部科学省「平成 18 年度子どもの学習費調査」

**小学校
新入生**

一族郎党(親、祖父母)を従えるいまどきのピカピカの1年生

桜の花咲き乱れる中、新入生一人につき4~5人の大人が付き添って小学校の校門を出入りする光景が広がっている。家族での一人っ子時代が定着した今日、小学校新入学はその両親ばかりか、その親たちの親たちにとっても一大イベントとなる。そこには孫の晴れやかな姿をともに喜びたい二組の祖父祖母がいる。ここから孫の争奪戦が始まるのである。

昔の祖父祖母は金品で済ますことでこのイベントを乗り越えてきたが、暇と体力とある程度の資産を持つ現在の一部の高齢者たちは、このイベントで家族の絆を再生したがる。そして大人化している今の小学校1新入生はシックスポケットマネーを手にピカピカに輝くのである。

◆減り続ける小学校入学者数。

昭和55年対比88万人減の117万人に。

- ①義務教育のため、出生人口全員が入学。平成20年度の小学校入学者数は117万人である。
- ②小学校新入生数は、昭和55年頃の第二次ベビーブーマーの200万人をピークとして、その後平成2年に150万人、平成12年に120万人へと減り続け、平成20年度には昭和55年の約6割となっている。
- ③国公立学校別で小学校入学生(=小学1年児童数でカウント)を見ると、公立が115万人(98%)、国立は7.7万人(0.7%)、私立は2.4万人(1.2%)となっている。
私立入学者は男子より女子のほうが若干多い
- ④私立小学校の入学募集定員数は少なく、有名小学校への「お受験競争」は熾烈化している。

| | | 入学者数 | 指数 |
|-------------|-------------|--------------|------------|
| 昭和45年 | 1970 | 1,622 | 108 |
| 50 | 1975 | 1,892 | 126 |
| 55 | 1980 | 2,056 | 137 |
| 60 | 1985 | 1,683 | 112 |
| 平成2年 | 1990 | 1,502 | 100 |
| 7 | 1995 | 1,300 | 87 |
| 12 | 2000 | 1,192 | 79 |
| 17 | 2005 | 1,200 | 80 |
| 18 | 2006 | 1,182 | 79 |
| 19 | 2007 | 1,176 | 78 |
| 20 | 2008 | 1,169 | 78 |

文部科学省「学校基本調査」

▼平成20年度の小学1年児童数(国立、公立、私立別)

| | 計 | 構成比 | 男 | 構成比 | 女 | 構成比 |
|-----------|------------------|--------------|----------------|--------------|----------------|--------------|
| 計 | 1,169,396 | 100.0 | 598,556 | 100.0 | 570,840 | 100.0 |
| 国立 | 7,653 | 0.6 | 3,797 | 0.6 | 3,856 | 0.7 |
| 公立 | 1,148,187 | 98.2 | 589,153 | 98.4 | 559,034 | 97.9 |
| 私立 | 13,556 | 1.2 | 5,606 | 1.0 | 7,950 | 1.4 |

文部科学省「学校基本調査」

◆熾烈な私立小学校「お受験」競争

- ①バブル経済期の1980年代以降、小学校受験ブームが到来した。バブル崩壊によりブームは一時的に沈静化した。ゆとり教育への危機感から「学力指導への期待」「地元の公立小学校への不信」「激化する一方の中学受験のあり方への疑問」など、公教育や中学受験への不満を背景に2000年頃から再び小学校受験熱が大きな高まりをみせている。
- ②小学校受験とは、私立小学校、国立大学付属小学校に入学するための試験を受けることだが、受験と合格のための準備一般を指すこともある。小学校受験の内容は、学力のほかに行儀作法なども重視され、抽選も加わり、小学校によっては縁故や両親の社会的地位が影響する場合があると言われている。
- ③小学校受験を行う小学校のうち、入学希望者が多く、受験倍率が高くなる小学校は、国立大学の付属小学校、有名私立大学の付属小学校などに多く見られる。私立大学の付属小学校の場合、中学から高校、大学まで、一般の入学試験を受ける厳しさがなくなるため人気が高くなる傾向がある。受験倍率の点では国立大学の付属小学校は極めて高く、小学校受験の準備は相当の期間と幼児教育が必要とされ、そのための財力も要求されることになる。
- ④中学受験では入試問題の多くが公開され、合格最低点なども公表され、受験生にとって合否が納得できる情報公開がなされているが、一方小学校受験では問題が同じ学校でもグループ毎に異なる場合もあり、多くは未公開で合格最低点などは公表されない。行動観察や面接のウェイトが大きいことから公開しようがないとも言える。情報公開が進んでいないために、口コミが主要な情報源となり初心者近づきにくい世界になっている。また入試にまつわる様々な噂が広まるのも小学校受験の特徴だ。

中学校
新入生

人生最大(?)の難関、有名中学受験を乗り越えて。

日本では中等教育への進学率はほぼ100%であり、多くの小学生は自動的に中学校などの学校に進学する。公立の中学校では学習者本人(実質的には保護者)の住所によって、通える学校が厳密に指定(学区制)されている。ただし近年、公立学校選択制が施行され始めており、徐々に中学校の選択肢は増えている。国立の中学校では公立の中学校の学区ほどではないが、通学区域をかなり制限している場合もある。私立の中学校ではあまり厳密な学区制限がない場合が多いが、通学時間上限を設けたり、親元を離れての通学を認めなかったりといったケースもある。

一方、日本の公立中学校では特定の宗教教育ができないため、宗教的思想を重んじる者はそれに力点を置いた私立中学校(ミッションスクールなど)へ通うことで、各々の信仰に応じた宗教教育を受けることができる。

| | 計 | 構成比 | 男 | 構成比 | 女 | 構成比 |
|----|-----------|-------|---------|-------|---------|-------|
| 計 | 1,176,243 | 100.0 | 600,637 | 100.0 | 575,606 | 100.0 |
| 国立 | 10,981 | 0.9 | 5,507 | 0.9 | 5,474 | 1.0 |
| 公立 | 1,078,923 | 91.7 | 554,805 | 92.4 | 524,118 | 91.1 |
| 私立 | 86,339 | 7.3 | 40,325 | 6.7 | 46,014 | 8.0 |

◆中学校の新入学生徒数は118万人。増える私立中高一貫校への入学者。

- ①中学校の入学者数は平成20年度で118万人。昭和60年度前後の第二次ベビーブーマーの新入学生約200万人の時代と比べ、約6割の120万人前後で推移している。
- ②国・公立、私立で見ると、平成20年度で私立中学入学者数(1年生在校生としてカウント)は男40,325人(全中学1年生全男生徒の7%)、女は46,014人(同女8%)になっている。男女ともに私立入学者は7%前後となっている。
- ③私立学校では男女別学の学校が多い。特に、難関大学合格者を大量に輩出する進学校型中高一貫校の多くを男女共に別学校が占める。近年は生徒数減少のため、共学化して人気を呼ぼうとする学校も見られる。
- ④中受験校である中高一貫教育校や大学エスカレート中学校受験の競争率は高く、競争が激しい。

| 年度 | | 入学者数 | 指数 |
|-------------|-------------|--------------|------------|
| 昭和45年 | 1970 | 1,525 | 88 |
| 50 | 1975 | 1,612 | 93 |
| 55 | 1980 | 1,854 | 107 |
| 60 | 1985 | 2,047 | 118 |
| 平成2年 | 1990 | 1,733 | 100 |
| 7 | 1995 | 1,513 | 87 |
| 12 | 2000 | 1,326 | 77 |
| 17 | 2005 | 1,200 | 69 |
| 18 | 2006 | 1,188 | 69 |
| 19 | 2007 | 1,227 | 71 |
| 20 | 2008 | 1,176 | 68 |

文部科学省「学校基本調査」

◆小学6年生の5.6人に1人が「中学受験」。「学力不安」広がり、増え続ける中学受験者

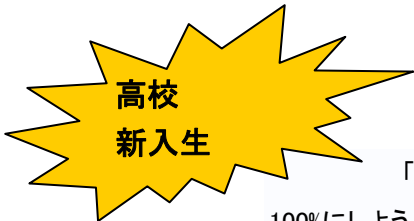
この10年間で中学入学について大きな変化が生まれている。少子化や公立学校離れなどを背景に私学志向が高まり、中学受験者はこの10年ほど増加傾向が続いている。

公立離れのきっかけの一つとなったのは、文部科学省が「ゆとり教育」の一環として実施した2002年の学習指導要領改訂。学習内容を3割削減し、完全学校週5日制を実施したことを端緒に学力低下への懸念が広がった。逆にこれが私学にとっては追い風になり、リキュラムや授業の工夫などを進め、学力維持・向上に努めた私立中学校はこれを一つの契機にして人気が高まった。

①首都圏に限って受験者数を見てみると、2000年度は38,500人で8人に1人の割合であったが、2008年度は52,500人にものぼり、5.6人に1人が受験している。

②モデルケースとして、小学3年生2月から6年生1月まで大手進学塾に通い始めたとして、受験までにかかるおおよその費用は、約3年間で254万円。家庭教師を利用する、個人塾や通信教育などを利用した場合は、200万円近い出費覚悟が必要だ。

| 入試年度 | 首都圏受験者数 | 全国小6児童数 | 首都圏小6児童数 | 首都圏割合 | 受験率 |
|-------|---------|-----------|----------|-------|--------------|
| 2000年 | 38,500 | 1,326,960 | 308,363 | 23.2% | 12.5% |
| 2001年 | 39,300 | 1,301,375 | 305,742 | 23.5% | 12.9% |
| 2002年 | 38,500 | 1,239,194 | 290,560 | 23.4% | 13.3% |
| 2003年 | 40,400 | 1,214,274 | 288,047 | 23.7% | 14.0% |
| 2004年 | 43,200 | 1,217,419 | 293,219 | 24.1% | 14.7% |
| 2005年 | 44,700 | 1,203,193 | 290,241 | 24.1% | 15.4% |
| 2006年 | 47,100 | 1,192,343 | 293,775 | 24.6% | 16.0% |
| 2007年 | 52,000 | 1,232,292 | 307,011 | 24.9% | 16.9% |
| 2008年 | 52,500 | 1,182,241 | 295,792 | 25.0% | 17.7% |



「15歳の春」を泣かなくなった全員入学の高校新入生。

「15歳の春を泣かせない」とのスローガンの下、進学希望者の高校進学率を100%にしようとする動きが1960年代に全国的に高まった。その目標がほぼ達成された

結果、現在では学力的にかなり不十分である生徒であっても、偏差値が下位の公立高校・私立高校(いわゆる教育困難校)や定時制高校、通信制高校などへは入学が可能であり(通信制高校は一般に全入)、これらの学校が低学力の生徒の実質的な受け皿として機能している側面がある。しかし、これらの「受け皿」校では入学後の学習意欲に欠ける生徒が多いため、入学後短期間で高校を中退する率も高い。現状では高校等の入学志願者の多くが中学校等を卒業する見込みの者(現役生)であり、浪人などの過年度生はあまりいない。

私立高校では完全中高一貫校となって、高校からの外部入学者の募集をせず、併設中学校からの内部進学のみとする学校も多く存在する。併設型中高一貫教育を実施している中学校の場合は、併設の高校に、筆記試験による学力検査を受けることなく進学できる場合が多い(外部受験をすると落ちた場合でも内部進学資格が消滅する場合もある)。この「高校受験」をしなくてすむという点が、中高一貫校のメリットの一つである。

◆高校新入生 124 万人。高校全入時代下での「私立志向」が高まる

- ①現在の高等学校入学状況は、昔と違い、高校入学に該当する生徒数も少なく、また、団塊世代ジュニアの高等学校進学期に高等学校の入学定員数が増えているなどの理由から、高等学校入学希望者はほぼ全員入学できる状況にある。
- ②高等学校新入生数は平成20年度には男子58万人女子56万人で合計114万人で前年より約1.5万人減少。また全日制高校への入学者数比率は全入学者の97%、定時制入学者数比率は3.3%(男3.6%、女3.0%)と僅かである。
- ③国公立、私立別の入学者数を見ると、公立が男女ともに全入学者の約70%を占め約80万人であるが、私立への入学者は男女ともに30%を占め計34万人となっている。私立進学志向が強まっており、高校入学競争率(入学希望者/定員数)は、私立は2.9倍、公立高校は1.4倍である。
- ④学科別で入学者の割合を見ると、普通科が72%、工業科への入学者数比率は8%、商業科は6.7%、農業科へは2.7%となっている。
- ⑤高等学校は大学受験の準備のための教育の場と化している

| ▼高等学校本科(全日制及び定時制) | | | |
|-------------------|-------------|--------------|------------|
| | | 入学者;千人 | 指数 |
| 昭和45年 | 1970 | 1,382 | 74 |
| 50 | 1975 | 1,468 | 78 |
| 55 | 1980 | 1,628 | 87 |
| 60 | 1985 | 1,771 | 95 |
| 平成2年 | 1990 | 1,871 | 100 |
| 7 | 1995 | 1,552 | 83 |
| 12 | 2000 | 1,400 | 75 |
| 17 | 2005 | 1,184 | 63 |
| 18 | 2006 | 1,157 | 62 |
| 19 | 2007 | 1,158 | 62 |
| 20 | 2008 | 1,144 | 61 |

| ▼定時制率(本科限定) | | | |
|-------------|------|------|------|
| | 計 | 男 | 女 |
| 平成19年度 | 3.2% | 3.5% | 2.9% |
| 平成20年度 | 3.3% | 3.6% | 3.0% |

文部科学省「学校教育基本調査」

◆ 私立高校への入学率は **30%** (男 **30.4%**、女 **29.6%**) に。

| 平成 20 年度／高等学校入学状況(国・公・私立別) | | | | | | | |
|----------------------------|---------|---------|------|---------|------|-------|-----|
| | 計 | 私立 | 構成比 | 公立 | 構成比 | 国立 | 構成比 |
| 男 | 580,467 | 176,532 | 30.4 | 402,415 | 69.3 | 1,520 | 0.3 |
| 女 | 563,376 | 166,970 | 29.6 | 394,953 | 70.1 | 1,453 | 0.3 |

文部科学省「学校基本調査」

◆ 入学定員充足率は **100%** を切り、全員入学が定着化。

| 平成 20 年度／高等学校受験倍率、定員充足率 | | | | | |
|-------------------------|---------|-----------|-------|---------|-------------|
| | A・入学定員 | B・入学志願者 | 倍率B/A | C・入学者数 | 充足率 C/A |
| 私立 | 406,912 | 1,172,424 | 2.9 | 343,502 | 84% |
| 公立 | 829,461 | 1,141,380 | 1.4 | 797,368 | 96% |
| 国立 | 2,915 | 6,488 | 2.2 | 2,973 | 102% |

文部科学省「学校基本調査」

◆ 大学進学へ向けて「普通科」入学の比率が **70%** 超え、高校は受験予備校化へ。

| 高等入学学科別(男女計) | | | | |
|--------------|----------------|-------------|----------------|-------------|
| | 平成 19 年度 | 構成比 | 平成 20 年度 | 構成比 |
| 計 | 1,166,687 | 100 | 1,152,143 | 100 |
| 普通科 | 841,052 | 72.1 | 830,292 | 72.1 |
| 農業科 | 31,226 | 2.7 | 31,102 | 2.7 |
| 工業 | 95,740 | 8.2 | 93,867 | 8.1 |
| 商業 | 79,079 | 6.8 | 77,324 | 6.7 |
| 水産 | 3,472 | 0.3 | 3,416 | 0.3 |
| 家庭 | 16,450 | 1.4 | 15,668 | 1.4 |
| 看護 | 4,461 | 0.4 | 4,341 | 0.4 |
| 情報 | 862 | 0.1 | 978 | 0.1 |
| 福祉 | 3,548 | 0.3 | 3,266 | 0.3 |
| その他 | 34,973 | 3.0 | 34,428 | 3.0 |
| 総合学科 | 55,824 | 4.8 | 57,461 | 5.0 |

文部科学省「学校基本調査」

専修学校と各種学校

専修(専門) 学校新入生

専修学校は職業もしくは実際生活に必要な能力を育成し、または教養の向上を図ることを目的として組織的な教育を行う施設である。1976年(昭和51年)に、学校教育法に専修学校の規定を加える法律が施行され、それ以前に各種学校であった教育施設のうち、設置基準を満たすものが専修学校に移行した。専修学校には高等課程、専門課程、一般課程のいずれかまたは複数がおかれる。一般に専修学校の個別の校名には「専修学校」「高等専修学校」「専門学校」「大学校」を冠したものが使われる。

- ①専修(専門)学校への入学者数は平成20年度は30万6千人で女が男を上回る。
- ②平成2年度の入学者45万4千人をピークに、以降、年々入学者は減少を続け平成20年度はピーク時の67.5%となり7割を下回った。

- ③専修学校は就職氷河期での就職率は70%を超えるなど大学生就職率よりもよく再評価されたり、また、「大学」と「専修学校の専門課程」に同時に在籍する「ダブルスクール」の者も増えるなど注目を浴びたこともあった。

| ◆専修(専門)学校の入学者数推移 | | | | | |
|------------------|------|-------------|-------|------|-------------|
| | | 入学者 (千人) | 指数 | うち女性 | 同構成 比(%) |
| 平成2年 | 1990 | 454 | 100.0 | 221 | 48.7 |
| 7 | 1995 | 432 | 95.2 | 213 | 49.3 |
| 12 | 2000 | 386 | 85.0 | 201 | 52.1 |
| 17 | 2005 | 387 | 85.2 | 200 | 51.7 |
| 18 | 2006 | 358 | 78.9 | 186 | 52.0 |
| 19 | 2007 | 334 | 73.6 | 177 | 53.0 |
| 20 | 2008 | 306 | 67.4 | 163 | 53.3 |

- ④しかし平成17年ころから少子化による大学入試の易化、大学での職業教育の充実により、専修学校の専門課程は、生徒集めに苦戦しているといわれ、この数年は入学者数はかなりの数で減っている。

- ⑤学科別の入学者(平成20年度)を関係分類で見ると、上位に・デザイン、受験補修の「文化教養関係」、看護や理学・作業療法などの「医療関係」、調理、美容の「衛生関係」、自動車整備、情報処理などの「工業関係」への入学者が多い。

文部科学省「学校基本調査」

| 専門過程関係別の入学者(平成20年度) | | | | | |
|---------------------|---------|-------|---------|---------|------|
| | 計 | 構成比 | 男 | 女 | 女性比率 |
| 平成20年度 | 306,225 | 100.0 | 143,189 | 163,036 | 53.2 |
| ①文化・教養関係 | 89,406 | 29.2 | 50,182 | 39,224 | 43.9 |
| ②医療関係 | 73,405 | 24.0 | 23,730 | 49,675 | 67.7 |
| ③衛生関係 | 43,492 | 14.2 | 14,614 | 28,878 | 66.4 |
| ④工業関係 | 38,919 | 12.7 | 32,876 | 6,043 | 15.5 |
| ⑤商業実務関係 | 31,016 | 10.1 | 12,373 | 18,643 | 60.1 |
| ⑥教育・社会福祉関係 | 16,693 | 5.5 | 5,410 | 11,283 | 67.6 |
| ⑦服飾・家政関係 | 11,540 | 3.8 | 2,711 | 8,829 | 76.5 |

⑥受験補修を除く専門過程別入学者ベスト 20 を見ると「1 位看護」「2 位美容」「3 位情報処理」「4 位調理」「5 位デザイン」の専門過程への入学者が多い

| ▼専門過程別入学者数ベスト 10(平成 20 年度) | | | | | | |
|----------------------------|---------|---------|-------|---------|---------|------|
| 専門課程 | | 計 | 構成比 | 男 | 女 | 女性比率 |
| 平成 20 年度 | | 306,225 | 100.0 | 143,189 | 163,036 | 53.2 |
| 1 位 | 看護 | 30,894 | 10.1 | 4,413 | 26,481 | 85.7 |
| 2 位 | 美容 | 19,925 | 6.5 | 5,474 | 14,451 | 72.5 |
| 3 位 | 情報処理 | 12,992 | 4.2 | 10,157 | 2,835 | 21.8 |
| 4 位 | 調理 | 11,864 | 3.9 | 6,470 | 5,394 | 45.5 |
| 5 位 | デザイン | 11,791 | 3.9 | 4,779 | 7,012 | 59.5 |
| 6 位 | 理学・作業療法 | 10,142 | 3.3 | 6,193 | 3,949 | 38.9 |
| 7 位 | 自動車整備 | 9,977 | 3.3 | 9,816 | 161 | 1.6 |
| 8 位 | 和洋裁 | 8,642 | 2.8 | 1,931 | 6,711 | 77.7 |
| 9 位 | 音楽 | 7,263 | 2.4 | 3,482 | 3,781 | 52.1 |
| 10 位 | 准看護 | 6,807 | 2.2 | 1,312 | 5,495 | 80.7 |

各種学校

新入生

各種学校は、教養、料理などの分野を教育する施設として設置されている。また、予備校や自動車教習所も各種学校であることが多い。インターナショナルスクールや朝鮮学校などの民族学校も大半は各種学校である。誤って専修学校(専門学校、高等専修学校)と混同されやすいが、専修学校と各種学校は学校教育法において明確に区別されている。

①各種学校への入学者数は、平成 20 年で男女計 6 万 4 千人。そのうち女性は 46.9%で、男女ほぼ同数の入学者となっているが、この数年女性比率は高まっている。

②入学者数の推移を見ると、約 20 年前の平成 2 年(1990)は 26 万 3 千人でこの 20 年間では最大数である。入学者数は年々減り続け、平成 20 年度の入学者数は平成 2 年度の 224.3%で約 4 分の 1 のレベルに落ち込んでいる。

③専門課程別での入学者をみると、「予備校」「自動車操縦」「文化教養(外国語学校など)」関係の入学者が多くを占めている。

| ◆各種学校入学者数推移 | | | | | |
|-------------|------|------------|-------|----------|------------|
| | | 入学者; 千人 | 指数 | うち女 性 | 構成比 (%) |
| 平成 2 年 | 1990 | 263 | 100.0 | 104 | 39.5 |
| 7 | 1995 | 186 | 70.7 | 78 | 41.9 |
| 12 | 2000 | 117 | 44.5 | 54 | 46.2 |
| 17 | 2005 | 84 | 31.9 | 38 | 45.2 |
| 18 | 2006 | 72 | 27.4 | 33 | 45.8 |
| 19 | 2007 | 67 | 25.5 | 30 | 44.8 |
| 20 | 2008 | 64 | 24.3 | 30 | 46.9 |

文部科学省「学校基本調査」

| | ▼各種学校専門課程別入学者(平成20年度) | | | | | | |
|------------------|-----------------------|-------------|---------------|-------------|---------------|-------------|-------------|
| | 計 | 構成比 | 男 | 構成比 | 女 | 構成比 | 女性比率 |
| 平成20年度 | 64,053 | 100.0 | 34,259 | 100.0 | 29,794 | 100.0 | 46.5 |
| 工業関係 | 291 | 0.5 | 157 | 0.5 | 134 | 0.4 | 46.0 |
| 農業関係 | 338 | 0.5 | 168 | 0.5 | 170 | 0.6 | 50.3 |
| 医療関係(准看護等) | 5,027 | 7.8 | 1,111 | 3.2 | 3,916 | 13.1 | 77.9 |
| 衛生関係 | 353 | 0.6 | 144 | 0.4 | 209 | 0.7 | 59.2 |
| 教育・社会福祉関係 | 161 | 0.3 | 26 | 0.1 | 135 | 0.5 | 83.9 |
| 商業実務関係 | 5,164 | 8.1 | 2,301 | 6.7 | 2,863 | 9.6 | 55.4 |
| 家政関係(料理学校等) | 2,111 | 3.3 | 130 | 0.4 | 1,981 | 6.6 | 93.8 |
| 文化・教養関係(外国語学校など) | 11,553 | 18.0 | 4,244 | 12.4 | 7,309 | 24.5 | 63.3 |
| その他 | 39,055 | 61.0 | 25,978 | 75.8 | 13,077 | 43.9 | 33.5 |
| 予備校 | 21,859 | 34.1 | 15,699 | 45.8 | 6,160 | 28.2 | 28.2 |
| 学習・補習 | 2,016 | 3.1 | 1,254 | 3.7 | 762 | 37.8 | 37.8 |
| 自動車操縦 | 10,899 | 17.0 | 6,998 | 20.4 | 3,901 | 35.8 | 35.8 |
| 外国人学校 | 4,258 | 6.6 | 2,015 | 5.9 | 2,243 | 52.7 | 52.7 |
| その他 | 23 | 0.0 | 12 | 0.0 | 11 | 47.8 | 47.8 |

文部科学省「学校基本調査」

▼各種学校の種類と校名

| 種類 | 校名 |
|----------------|--|
| 予備校等 | 〇〇予備学校〇〇校、〇〇予備校、〇〇塾〇〇校、〇〇ゼミナール、〇〇セミナーなど |
| 服飾・料理関係 | 〇〇ファッションスクール、〇〇服装学院、〇〇洋裁学院、〇〇裁縫女学校、〇〇編物学院、〇〇服飾アカデミー、〇〇料理学院など |
| 看護系 | 〇〇准看護学院、〇〇看護学院、〇〇助産学校など |
| 事務関係 | 〇〇経理学校、〇〇珠算学校、〇〇珠算学院、〇〇タイピスト養成所、〇〇簿記学校など |
| 語学関係 | 〇〇外語学院、〇〇日本語学院など |
| インターナショナル・スクール | 〇〇朝鮮初中高級学校、〇〇インターナショナル・スクールなど |
| 自動車教習所 | 〇〇自動車学校など |

(備考); 予備校の経営形態は大きく分けて学校法人と株式会社の2種類があり、開設が容易な株式会社に対し、学校法人は学校教育法における「各種学校」に属するため、監督官庁である都道府県知事の認可が必要。建物、設備、講師数など一定の条件を満たすことが条件とされている。本科の所得は非課税対象。

短大・大学・大学院

短期大学

新入生

入学者激減の中、専門性志向強めるいまどきの短大生

短期大学は修業年限を2年または3年とする大学のことで、深く専門の学芸を教授研究し、職業又は実際生活に必要な能力を育成することをおもな目的としている（学校教育法第108条第1項）

高学歴キャリア志向で短大の新入学生は7.7万人に激減。

①昭和25年（1950年）に短期大学が開学しているが、その頃から約20年近く女性は20代半ばまでに結婚するのが一般的であった上に女性向けの学科が多かった点も背景にあり、女性の進学先として短期大学は定着した。教員職を除き、女性が民間企業に就職する場合は短期大学を卒業するのが一般的であった。昭和60年頃までは毎年18万人前後の新入生がいた。

②昭和60年（1985年）に男女雇用機会均等法が制定され、「一般職」と「総合職」という2つの形態の職種が生まれ、女子大学や短期大学は女子の役職である一般職に就職しやすいために女子の進学先の定番となり、平成2～7年には在学者数が20万を超えピークを迎えている。

③バブル景気が終わり平成不況によって経費削減を迫られた上に平成8年（1996年）に法改正によって派遣社員が増加したため、大企業を中心に男女区別なく総合職のみに限定して採用を行う企業や、事務のみの一般職を廃止して地域内での移転に留めるのみで仕事を行う地域総合職が、銀行や証券会

| | | 入学者数;千人 | 指数 |
|-------------|-------------|------------|--------------|
| 昭和50年 | 1975 | 175 | 74.5 |
| 55 | 1980 | 178 | 75.7 |
| 60 | 1985 | 174 | 74.0 |
| 平成2年 | 1990 | 235 | 100.0 |
| 7 | 1995 | 233 | 99.1 |
| 12 | 2000 | 141 | 60.0 |
| 17 | 2005 | 99 | 42.1 |
| 18 | 2006 | 91 | 38.7 |
| 19 | 2007 | 85 | 36.2 |
| 20 | 2008 | 77 | 32.8 |

文部科学省「学校基本調査」

社を中心に設けられたため、短大の人气が低迷し、新入生の数も10万人を切るにいたっている。

▼短期大学志願倍率

| | 公立 | 私立 | 計 |
|--------|------|------|------|
| 平成15年度 | 3.7倍 | 1.7倍 | 1.9倍 |
| 平成20年度 | 2.7倍 | 1.4倍 | 1.5倍 |

文部科学省「入学者選抜実施状況」

④短大に入学する際も、一般職狙いに学科に入学するよりも幼稚園教育や看護関係の専門志向の強い学科への入学シフトが起こっている。そこには短大経営の総合大学化の流れの影響がある。女性の高学歴志向やキャリア志向、結婚退社の考えがなくなって晩婚化が進み、女性が通常の大学を卒業して、総合職や地域総合職に就くことが一般化した。その上、少子化や大学の増設（その大部分は短大の4年制大学への改組）によって、現在では女性も通常の大学に進学することが一般的になっている。

⑤短期大学の数は平成に入って以降激減している。但しその大部分は4年制大学への改組である。女子短大であれば共学化も共に行うケースが多い。純粋に短期大学の閉学となる場合は同一学校法人に4年制大学が既に存在する場合がほとんどである。大学全入時代が到来しているのに大学の開設が相次ぐのは、かかる短大からの改組が多いからである。

| ▼平成20年度 短大の学科別・男女別入学者 | | | | | | |
|-----------------------|-------|-------|--------|--------|------|------|
| | 男 | 構成比 | 女 | 構成比 | 女性比率 | |
| 平成20年度計 | 8,021 | 100.0 | 69,318 | 100.0 | 89.6 | |
| 人 文 | 733 | 9.1 | 9,070 | 13.1 | 92.5 | |
| 社 会 | 1,725 | 21.5 | 7,592 | 11.0 | 81.5 | |
| 教 養 | 13 | 0.2 | 1,169 | 1.7 | 98.9 | |
| 工 業 | 2,006 | 25.0 | 486 | 0.7 | 19.5 | |
| 農 業 | 377 | 4.7 | 309 | 0.4 | 45.0 | |
| 保 健 | 486 | 6.1 | 3,950 | 5.7 | 89.0 | |
| 家 政 | 533 | 6.6 | 15,978 | 23.1 | 96.8 | |
| | 家政学 | 310 | 3.9 | 10,362 | 14.9 | 97.1 |
| | 食物学 | 204 | 2.5 | 4,827 | 7.0 | 95.9 |
| 教 育 | 1,275 | 15.9 | 22,150 | 32.0 | 94.6 | |
| | 初等教育 | 157 | 2.0 | 2,787 | 4.0 | 94.7 |
| | 幼稚園教育 | 1,036 | 12.9 | 18,175 | 26.2 | 94.6 |
| 芸 術 | 353 | 4.4 | 3,243 | 4.7 | 90.2 | |
| そ の 他 | 520 | 6.5 | 5,371 | 7.7 | 91.2 | |

文部科学省「学校基本調査」

トピックス① 大学全入問題と大学生

1980年代後半から1990年代前半、バブル期に18歳人口がピークを迎えたことや大学不合格者が増加したことにより、各大学に臨時定員増加が認められた。2000年代に入り、小泉純一郎政権時代の規制緩和が大学にも及ぶことになり、それまでは学校法人審議会による厳しい審査が必要であった大学・学部新設の一部に届出制が導入された。

これが大学の新設ラッシュを引き起こし、1992年から2006年までの間に大学は約70校新設され、短大からの四年制移行もあわせると184校増加した。大学全体の定員が増加する一方で少子化は急激に進み、大学全入が現実味を帯びる状況となった。

日本私立学校振興・共済事業団が毎年行っている調査では、近年私立大学で定員割れを起こしている学部・学科等を持つ大学は全体の4割を超える状況が続いており、2007年度の調査では、私立短大の定員割れ率が初の6割超となった(つまり半数以上が定員を満たしていない)。

実際に定員割れによる経営問題や他の問題点を抱えた新興大学は多く、2005年6月に定員割れが原因としては初の民事再生法適用を申請した萩国際大学(現・山口福祉文化大学)の例などにより、「大学の倒産」という事態が現実のものとなった。

大学(学部)

新入生

毎年 60 万人人以上の新入大学生。全入時代に突入

少子化と大学教育改革の遅れから、2007 年頃に日本の大学への入学希望者総数が入学定員総数を下回る状況を迎えた。それによって、大学教育の質の低下、定員割れ、さらにその結果として引き起こされる大学崩壊の問題が浮上しているが、

大学進学熱は旺盛である。最近の大学入学者数は年間 60 万人前後で推移しているが、大学受験に変調の動きが出てきた。難関私立大への志願者が減少している。

全入時代が現実を帯びた 07 年頃から“大学淘汰”の視点から、受験生は高ブランドの難関有名大を目指し、難関大の人気の高くなったが、今年は打って変わって、志願者減の大学が目立っている。減少した大きな理由は経済不況にあるといわれ、合格を勝ち取るため安全志向の志望校選びを行っているようだ。しかし、大学入試というレベルでいえば、文部科学省の「入学者選抜実施状況調査」を見る限り志願倍率は5年前よりはるかに低くなっておりよし悪しは別にして「大学全入時代」への夜明けも近い。

大学の新入学生数は 60 万人台が続く中。女性のパワー圧倒。

大学の入学状況は、大学学部への入学者数(平成 20 年度)は 60 万 7 千人(国立 10 万 2 千人、公立 2 万 7 千人、私立 47 万 7 千人)であるが、この数年 60 万人前後のハイレベルで推移している。18 歳人口(平成 2 年 204 万人→平成 7 年 177 万人→平成 10 年 150 万人→平成 17 年 133 万人)が減り続ける中、大学進学率が平成 6 年に始めて 30%台に突入し、平成 14 年には 40.5%になっており最近では 50%台に近づいている。大学入学者数は、しばらくは 60 万人前後で推移するものと見られる。

| | | 総数 | | 国立 | | 公立 | | 私立 | |
|---------------|-------------|----------------|--------------|----------------|-------------|---------------|------------|----------------|-------------|
| | | 入学者 | 指数 | 入学者 | 構成比(%) | 入学者 | 構成比(%) | 入学者 | 構成比(%) |
| 昭和 55 年 | 1980 | 412,437 | 83.8 | 84,731 | 20.5 | 10,848 | 2.6 | 316,858 | 76.8 |
| 60 | 1985 | 411,993 | 83.7 | 88,103 | 21.4 | 11,364 | 2.8 | 312,526 | 75.9 |
| 平成 2 年 | 1990 | 492,340 | 100.0 | 100,991 | 20.5 | 14,182 | 2.9 | 377,167 | 76.6 |
| 7 | 1995 | 568,576 | 115.5 | 108,599 | 19.1 | 18,835 | 3.3 | 441,142 | 77.6 |
| 12 | 2000 | 599,655 | 121.8 | 103,054 | 17.2 | 23,578 | 3.9 | 473,023 | 78.9 |
| 17 | 2005 | 603,760 | 122.6 | 104,130 | 17.2 | 26,050 | 4.3 | 473,580 | 78.4 |
| 18 | 2006 | 603,054 | 122.5 | 104,027 | 17.3 | 26,935 | 4.5 | 472,092 | 78.3 |
| 19 | 2007 | 613,613 | 124.6 | 102,455 | 16.7 | 26,967 | 4.4 | 484,191 | 78.9 |
| 20 | 2008 | 607,159 | 123.3 | 102,345 | 16.9 | 27,461 | 4.5 | 477,353 | 78.6 |

文部科学省「学校基本調査」

▼大学志願倍率

| | 国立 | 公立 | 私立 | 計 |
|----------|-------|-------|-------|-------|
| 平成 15 年度 | 4.8 倍 | 6.8 倍 | 7.4 倍 | 6.9 倍 |
| 平成 20 年度 | 4.3 倍 | 5.4 倍 | 6.9 倍 | 6.4 倍 |

文部科学省「入学者選抜実施状況」

◆平成 20 年度入学者の「女性比率は平均 42.4%」

| ◆大学(学部)男女別入学状況推移平成 20 年度 | | | | 文部科学省「学校基本調査」 | | |
|--------------------------|---------|---------|-------|---------------|-------|------|
| | 男女計 | 男 | 構成比 | 女 | 構成比 | 女性比率 |
| 合計 | 607,159 | 349,608 | 100.0 | 257,551 | 100.0 | 42.4 |
| 人文科学 | 92,925 | 30,199 | 8.6 | 62,726 | 24.4 | 67.5 |
| 社会科学 | 213,984 | 144,861 | 41.4 | 69,123 | 26.8 | 32.3 |
| 理 学 | 19,039 | 13,970 | 4.0 | 5,069 | 2.0 | 26.6 |
| 工 学 | 93,594 | 83,226 | 23.8 | 10,368 | 4.0 | 11.1 |
| 農 学 | 17,703 | 10,428 | 3.0 | 7,275 | 2.8 | 41.1 |
| 保 健 | 52,992 | 21,470 | 6.1 | 31,522 | 12.2 | 59.5 |
| 家 政 | 16,676 | 1,696 | 0.5 | 14,980 | 5.8 | 89.8 |
| 教 育 | 39,703 | 16,042 | 4.6 | 23,661 | 9.2 | 59.6 |
| 芸 術 | 18,017 | 5,147 | 1.5 | 12,870 | 5.0 | 71.4 |
| そ の 他 | 42,526 | 22,569 | 6.5 | 19,957 | 7.7 | 46.9 |

◆「文学学科 73.8%」「教育学科 67.0%」はもとより、「応用化学科」は 19.8%も(女性比率)

| ▼大学入学者／学科別女性比率(平成 20 年度) | | | | 文部科学省「学校基本調査」 | |
|--------------------------|---------------|-------|-----------|---------------|--|
| | 女性比率が高い学科 | | 女性比率が低い学科 | | |
| 1 位 | 養護学校課程 | 100.0 | 機械工学 | 2.8 | |
| 2 位 | 住居学 | 95.0 | 金属工学 | 4.9 | |
| 3 位 | 被服学 | 94.6 | 電気通信工学 | 6.0 | |
| 4 位 | 児童学 | 92.6 | 航空工学 | 6.6 | |
| 5 位 | 看護学 | 89.5 | 原子力工学 | 7.1 | |
| 6 位 | 幼稚園課程 | 89.5 | 応用理学 | 8.4 | |
| 7 位 | 食物学 | 89.2 | 経営工学 | 11.3 | |
| 8 位 | 家政学 | 88.1 | 物理学 | 13.0 | |
| 9 位 | 音楽 | 81.1 | 教養課程(理科) | 14.8 | |
| 10 位 | 特別支援教育課程 | 80.9 | 船舶工学 | 14.9 | |
| 11 位 | 美術 | 76.1 | 土木建築工学 | 15.9 | |
| 12 位 | 文学 | 73.8 | 応用化学 | 19.8 | |
| 13 位 | 教養学 | 68.5 | 繊維工学 | 22.2 | |
| 14 位 | デザイン | 68.5 | 数学 | 23.4 | |
| 15 位 | 教育学 | 67.0 | 商学・経済学 | 25.5 | |
| 16 位 | 哲学 | 60.4 | 農業工学 | 25.9 | |
| 17 位 | 国際関係学(国際関係学部) | 60.1 | 地学 | 27.4 | |
| 18 位 | 総合科学 | 55.7 | 水産学 | 28.7 | |
| 19 位 | 小学校課程 | 55.3 | 法学・政治学 | 29.1 | |
| 20 位 | 社会学 | 55.0 | 化学 | 29.8 | |

トピックス② 受験生を必死に集める大学

受験生に対して様々な、時として過剰とも言える宣伝やサービスが行われるようになった。例としては、高校3年生を対象に就職率や就職先企業の実績、在学中に取得可能な公的資格などの広告や宣伝、オープンキャンパス(大学内の見学や学部などの説明、模擬授業、在籍学生や大学職員との交流イベント)、AO入試の実施などである。

大学によっては、オープンキャンパスで周辺主要都市からキャンパスへの無料送迎バスの運行や交通費の補助をしたり、学内食堂の無料券の配布、記念品の配布などが行われることもある。さらに、入試の成績優秀者に対して、入学金や授業料の全額または一部免除を行う大学も増えている。これには、併願受験を行う受験生を囲い込むという側面もある。

私立大学における経営収入の大部分を占める授業料を免除してまで学生を確保する動きがはじまったことは、大学全入時代の大学間競争が教育研究面での戦いだけでなく、財務状況、経営体力の争いであることを示している。

一方、浪人生、ひいては受験生全体の数の減少を受け、予備校においても現役生を視野に入れた経営を行うようになってきている。三大予備校の他、東進ハイスクールは現役生中心の授業を行い業績を伸ばしにかかる一方、地方の中小予備校は生徒集めに苦しい状況となっている。

また、専門学校も大学より簡単に入学できるというメリットが大学全入時代の到来で失われつつあり、存在目的である職業教育も大学が力を入れつつあるという苦しい状況となっている。

大学経営の破綻問題は、①18歳人口の減少傾向 ②40%前半で固定化する進学率、受験 ③入学費用・授業料アップ ④大学経営高コスト ⑤知的水準の低下などの原因と結果を生んでいる。

トピックス③ 入学式はなぜ四月？

日本では4月に入学するのが当たり前。なぜ4月に入学するようになったのか。

江戸時代は寺子屋、私塾、藩校などが学びの場であったが、特に入学の時期が定められていなかったもので、いつでも入学できた。その後、明治時代に西洋の教育が導入されると、高等教育では西洋にならって9月入学が主流となる。しかし、国の経済力を強めて軍備を増強する富国強兵政策により、政府の会計年度が4月-3月となったり、軍隊の入隊届出開始が4月になったりしたため、小学校や師範学校の入学時期がその影響で4月となり、大正時代には、高校や大学も4月入学になった。

外国の入学は9月(アメリカ、カナダ、イギリス、フランス、ベルギー、トルコ、モンゴル、ロシア、中国)が最も多いが、これらの国には共通点はいずれも夏休み明けから新学年がスタートする。日本のように厳粛な入学式や始業式をする国はあまりなく、簡単な手続きやパーティーだけという場合が多い。

**大学院
(修士・博士課程)
新入生**

専門課程など屋上屋を重ねる大学院

大学院は、大学(短期大学を除く)の学部課程の上に設けられ、大学(短期大学を除く)を卒業した者、およびこれと同等以上の学力を有すると認められた者を対象に、学術の理論および応用を教授研究し、文化の進展に寄与することを目的とするものである(学校教育法)。大学院には、博士前期課程、博士後期課程、一貫制博士課程、後期3年博士課程、4年制博士課程、修士課程、専門職学位課程などと通称される多数の課程がある。大学(短期大学を除く)は大学院を置くことができる(学校教育法第62条など)。

大学院入学者数は10万人台が目の前に。増え続ける大学院への入学者

2000年代以降は、社会的な要望から、主に社会人の経歴を有する者を教育する大学院の課程(社会人大学院などとも呼ぶ)の設置も相次いでいる。2003年度からは、専門職大学院の制度が作られ、法曹に必要な学識及び能力を培うことを目的とする法科大学院などが作られた。専門職大学院については、学術の理論および応用を教授研究し、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識および卓越した能力を培うことが強調されている。大学院の設置基準としては、大学院設置基準(昭和49年文部省令第28号)などがあり、専門職大学院に関しては、加えて、専門職大学院設置基準(平成15年文部科学省令第16号)などが適用される。

| | | 修士課程 | 指数 | 博士課程 | 指数 |
|-------------|-------------|---------------|--------------|---------------|--------------|
| 昭和55年 | 1980 | 16,844 | 54.8 | 4,669 | 59.8 |
| 60 | 1985 | 23,594 | 76.8 | 5,877 | 75.2 |
| 平成2年 | 1990 | 30,733 | 100.0 | 7,813 | 100.0 |
| 7 | 1995 | 53,842 | 175.2 | 13,074 | 167.3 |
| 12 | 2000 | 70,336 | 228.9 | 17,023 | 217.9 |
| 17 | 2005 | 77,557 | 252.4 | 17,553 | 224.7 |
| 18 | 2006 | 77,851 | 253.3 | 17,131 | 219.3 |
| 19 | 2007 | 77,451 | 252.0 | 16,926 | 216.6 |
| 20 | 2008 | 77,396 | 251.8 | 16,271 | 208.3 |

文部科学省「学校基本調査」

| | 男 | 構成比 | 女 | 構成比 | 女性比率 |
|-------|--------|-------|--------|-------|------|
| 合計 | 54,464 | 100.0 | 22,932 | 100.0 | 29.6 |
| 人文科学 | 2,157 | 4.0 | 3,346 | 14.6 | 60.8 |
| 社会科学 | 4,905 | 9.0 | 3,095 | 13.5 | 38.7 |
| 理 学 | 5,170 | 9.5 | 1,458 | 6.4 | 22.0 |
| 工 学 | 28,565 | 52.4 | 3,165 | 13.8 | 10.0 |
| 農 学 | 2,938 | 5.4 | 1,465 | 6.4 | 33.3 |
| 保 健 | 3,113 | 5.7 | 3,513 | 15.3 | 53.0 |
| 商 船 | 17 | 0.0 | 6 | 0.0 | 26.1 |
| 家 政 | 65 | 0.1 | 439 | 1.9 | 87.1 |
| 教 育 | 2,395 | 4.4 | 2,508 | 10.9 | 51.2 |
| 芸 術 | 769 | 1.4 | 1,270 | 5.5 | 62.3 |
| そ の 他 | 4,370 | 8.0 | 2,667 | 11.6 | 37.9 |

| ◆大学院「博士課程」別男女別入学者平成 20 年度 | | | | | | |
|-------------------------------|--------|--------|-------|-------|-------|------|
| | | 男 | 構成比 | 女 | 構成比 | 女性比率 |
| 合計 | | 11,264 | 100.0 | 5,007 | 100.0 | 30.8 |
| 人文科学 | | 690 | 6.1 | 723 | 14.4 | 51.2 |
| 社会科学 | | 872 | 7.7 | 453 | 9.0 | 34.2 |
| 理 学 | | 1,005 | 8.9 | 194 | 3.9 | 16.2 |
| 工 学 | | 2,597 | 23.1 | 404 | 8.1 | 13.5 |
| 農 学 | | 660 | 5.9 | 265 | 5.3 | 28.6 |
| 保 健(医学など) | | 3,903 | 34.7 | 1,873 | 37.4 | 32.4 |
| 家 政 | | 21 | 0.2 | 64 | 1.3 | 75.3 |
| 教 育 | | 226 | 2.0 | 221 | 4.4 | 49.4 |
| 芸 術 | | 92 | 0.8 | 127 | 2.5 | 58.0 |
| そ の 他 | | 1,198 | 10.6 | 683 | 13.6 | 36.3 |
| ◆大学院「専門職学位課程」別男女別入学者 平成 20 年度 | | | | | | |
| | | 男 | 構成比 | 女 | 構成比 | 女性比率 |
| 合計 | | 6,901 | 100.0 | 2,567 | 100.0 | 27.1 |
| 人文科学 | 哲学 | 24 | 0.3 | 53 | 2.1 | 68.8 |
| 社会科学 | | 6,031 | 87.4 | 2,087 | 81.3 | 25.7 |
| | 法学・政治学 | 3,916 | 56.7 | 1,494 | 58.2 | 27.6 |
| | 商学・経済学 | 1,761 | 25.5 | 424 | 16.5 | 19.4 |
| | 社会学 | 21 | 0.3 | 35 | 1.4 | 62.5 |
| | その他 | 333 | 4.8 | 134 | 5.2 | 28.7 |
| 工 学 | | 129 | 1.9 | 18 | 0.7 | 12.2 |
| 保 健 | 医学・その他 | 37 | 0.5 | 75 | 2.9 | 67.0 |
| 教 育 | 教員養成 | 430 | 6.2 | 256 | 10.0 | 37.3 |
| そ の 他 | | 250 | 3.6 | 78 | 3.0 | 23.8 |

文部科学省「学校基本調査」

執筆者コメント

今年も約 530 万人の新入生が学び舎に集う。かつては 760 万人であったことを知るとその激減ぶりに驚かされるが、この「新」と言う冠がつくと何かうれしくなる。思い浮かぶのは、《新しい酒を古い革袋に入れる者なからじ。もし、しかせば袋張り裂け酒漏れでてその袋もまた廃らん。新しき袋に新しき酒を入れなば、両方とも長持ちするなり》【新約聖書・マタイ伝】という文章だ。新しい内容を古くからある形式の中におさめてしまうのは、内容も形式もともに生きて来ないという教えた。受験も含め教育の現場は、「財政・資金」を巡って不安定なものになっているがそのような状況の中にいまどきの新入生は放り込まれる。所得ばかりでなく教育や情報まで格差社会を生き抜いてきた新入生達は、変わらなければ大学の現場に対してどのようなパフォーマンスを見せるのか。新入生の新人類たることに期待したい。(立澤)

いま(今)どきの新入生レポート・了